

都市と環境

- 美しい日本、持続可能な社会をめざして -

「5の行動目標」

21 世紀最大の人類的課題は、持続可能な社会を脅かす地球温暖化等の環境問題である。

国際社会は、本年 2 月に発効した京都議定書に基づき、化石燃料の消費削減等に取り組んでおり、その中で日本が環境立国として果たすべき責務は重大である。

全国市長会に結集する全国 763 の市は、基礎自治体として、地域住民の生活に密接に関わっている。市は、自然、風景、歴史などにより多様な地域性を有し、それぞれが固有の環境の課題を持っているが、環境問題において足並みをそろえていくことが重要であり、地球環境問題の解決における役割は極めて大きい。また、環境問題であるごみ対策や自然環境の保全・再生対策は、まさに市が本来果たすべき業務である。

全国の市は、美しい日本をめざし、持続可能な社会を構築するため、地球規模で考え、地域から行動することが重要である。

そのため、全国市長会は、市の連合組織として、「アクト・ローカリー (Act Locally)」の実践のため、「三つの行動指針」と「5 の行動目標」を提唱するものである。

「アクト・ローカリー (Act Locally)」の実践 三つの行動指針

- ・地球環境問題に取り組む「1億人の市民運動」実現に向けて、全国の市が一斉に提唱し、行動を起こす。
- ・市民と共に計画し、市民と共に行動する。
- ・先進事例に学び、自主的に取り組み、より高い目標へとレベルアップを図る。

都市と環境「5の行動目標」

- 1 「全国不法投棄監視ウィーク」の創設
- 2 「夏はノー上着、冬はセーター重ね着」の実践
- 3 家庭ごみの減量・有料化の促進
- 4 「地産地消」の実践
- 5 「もったいない実践運動」の展開

1 「全国不法投棄監視ウィーク」の創設

美しい日本を子供たちに伝えるため、「不法投棄監視ウィーク」を設け、全国の市で一斉に行動を起こそう。

不法投棄を根絶するための市民運動へと発展させよう。

さらに、全国の町村にも働きかけ、日本人の心を荒廃させる不法投棄を許さない、「美しい日本」ルールを確立しよう。

2 「夏はノー上着、冬はセーター重ね着」 の実践

地球温暖化問題は、エネルギー・資源多消費型の都市型ライフスタイルに根ざしている。

全国の市は、地域を代表する事業体であることを自覚し、市長をリーダーとして、市職員はもちろん、広く市民や企業に呼びかけ、「夏はノー上着」「冬はセーターの一枚重ね着」を共に実践しよう(オフィスの室温・夏は28℃、冬は19℃)。

また、市の公用車を、地球環境対策に配慮した車種(燃費10km/ℓ、10モード以上)に計画的に買い替えよう。市民にもこれらの取り組みを呼びかけよう。

3 家庭ごみの減量・有料化の促進

拡大生産者責任を徹底すると共に、全国の市でさらなるごみの減量に取り組み、家庭ごみの有料化を促進しよう。

市は、ごみ処理単価を市報で公表して市民と情報を共有し、市民と共にごみが環境に与える影響や処理コストについて考え、大量生産・大量消費・大量廃棄の仕組みに根ざしたライフスタイルを見直していこう。

4 「地産地消」の実践

全国の市は、学校給食の献立に地元産品を使用したり、公共施設の資材にできるかぎり地元産の木材等を使用しよう。

食を通じた「地産地消」の取り組みによって、安全で安心できる食糧の安定的供給、地域の環境保全活動の活性化、輸送過程でのエネルギー消費の削減、さらには過剰な食料消費と多量な食べ残しの削減などについて、市は市民と共に学ぶことができる。

食材をはじめ、地元産品を活用することは、地域の産業や生活文化の醸成、資源の地域内循環への貢献など多様な効果が期待できる有力な手段である。

5 「もったいない実践運動」の展開

「リデュース(ごみの減量)」「リユース(再使用)」「リサイクル(再利用)」の3Rの推進が国際的に取り組まれている中で、日本には「もったいない」という市民生活に根ざした素晴らしい言葉があり、その精神はまさに3Rの推進につながるものである。

先進的な取り組みを行っている都市の事例を参考に、全国の市で「もったいない実践運動」を提唱し、市民と共に計画、実践しよう。

そして、“sustainable”(サステイナブル)という言葉で表現されるように、手を携え、支えあい、有限な資源を将来の世代に引き継ぐため、持続可能な都市づくりを進めよう。